



from Mozambique
 僕には
 食べ物も休みもない。
 働き続けるしかないんだ
 ヨハネ君(11歳)

採掘場で泥まみれになりながらわずかな金を探すヨハネ君（モザンビーク）

児童労働の現状 9人に1人の子どもが犠牲に

児童労働を強いられる子どもの数は、年間1億6795万人。これは、世界の子どもの約9人に1人という割合です。さらに、この半数以上は、先述の「最悪の形態の児童労働」に就いており、子どもの人権が脅かされています。児童労働の主な原因は貧困。教育の機会を失った子どもは、大人になっても良い仕事を得にくい。家族を養えず、その子どもも働かなければならないという悪循環に陥っています。この悪循環から、9人に1人の子どもが未来を奪われているのです。



出典：「Marking progress against child labour Global estimates and trends 2000-2012」ILO



私たちの身近にある児童労働

児童労働は、私たちの身近なところにも存在します。例えば、コーヒー。安い価格の背景には、広大な農園で一日中コーヒーの実を収穫する子どもがいるかもしれません。大人よりも賃金が安い子どもは、コーヒーの他にも、チョコレートの原料であるカカオの収穫、Tシャツになる綿花の摘み取り、サッカーボールの縫製、指輪や携帯電話の部品になる金属の採掘等に従事しています。

児童労働 子どもたちが生きる現実

お風呂掃除やファストフード店でのアルバイト。日本でも、子どもが働く光景はよく目にします。しかし世界には、生きるために劣悪な環境で働かなくてはならない子どもたちが大勢います。そんな子どもたちを減らすために制定されたのが、児童労働世界反対デー。6月12日のその日を前に、厳しい世界に生きる子どもたちの現実をお伝えします。

児童労働とは？

児童労働は大きく二種類に分けられます。一つは、就業最低年齢（原則15歳）未満の子どもが大人のように働く労働で、例えば、他人の家で一日中行う家事労働。もう一つは、18歳未満の子どもによる健康・安全・道徳を損なう恐れのある労働で、危険な作業や売春、兵士等、「最悪の形態の児童労働」と言われます。教育を受けられない、自由に遊ぶ時間がない等、子どもが健全に育つことが難しいという点で、日本で見られるアルバイトやお手伝いとは区別されます。



山から土の塊を切り出し、埃が舞う工場で一日中レンガを作るサライ君（左）。「最悪の形態の児童労働」の一例（カンボジア）

児童労働をなくすために

この問題に取り組むため、国際労働機関（ILO）は国際条約で児童労働を禁止しており、国連も「子どもの権利条約」で子どもの基本的人権を認めています。多くの国はこれらの条約に賛同し、国内法を整備。また近年では、製品の製造過程で児童労働が行われていないか、厳しくチェックする企業も現れています。

ワールド・ビジョンは、児童労働の主な原因である貧困を断ち切るため、チャイルド・スポンサーシップを通じて、地域全体の環境改善に取り組んできました。さらに、2014年のG20サミットに際して、G20諸国が児童労働問題に協力して取り組むことを求めた政策提言書を発表しています。これからも、支援活動とアドボカシーの両輪で、この問題に取り組んでいきます。

ヨハネ君の現実

モザンビークに住むヨハネ君は、お母さんと3人の兄弟の5人家族。お父さんがいないため、長男のヨハネ君が働きます。毎朝6時に起きて、採掘場で金を探します。空腹のまま、8時間泥を掘り続けましたが、売れる量には届きません。約2日間で、ようやく2米ドルの収入になります。この地域には、ヨハネ君のような子どもたちが沢山います。「僕には食べ物も休みもない。働き続けるしかないんだ」



ヨハネ君（左から2人目）とその家族